

公表

## 事業所における自己評価考察票

○事業所名	療育センターさくら草 たんぼぼ		
○保護者評価実施期間	令和7年10月8日		～ 2025年10月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	2025年10月14日		～ 令和7年10月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月18日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	緊急時の対応について職員間で周知されていること。	年度始めの療育センターさくら草全職員対象の研修やたんぼぼ職員対象の園内研修でナースによる発作時の対応等についての研修を実施している。	引き続き、園内研修で事故・怪我等の対応について職員が学ぶ機会を計画する。 また、危機管理等の研修に職員が年1回参加し、伝達研修で職員全員に周知する。
2	園児、保護者、職員が心地よく過ごすことができ、子ども達に合わせた環境空間作りがされていること。	園児降園後に職員が玩具の消毒や教室の掃除を行っている。また、登園前等に環境整備を実施している。(教室、園庭等)。 園児や職員の動き等に配慮した空間作りを行っている。	引き続き、毎日園児降園後に職員が玩具の消毒や教室の掃除を行う。登園前等に環境整備を実施する(教室、園庭等)。また、掲示物等の確認等も行う(掲示物が破れていないか、日付は過ぎていないか、子どもが活動する上で掲示物が活動の妨げになっていないか等)。
3	子ども1人1人に合った支援を行うと共に保護者に支援に関する説明等を行っていること。	園児、保護者のニーズの聞き取りをし、個別支援計画に反映させている。また、個別支援計画について保護者に説明を行う際は、丁寧な説明を心がけている。	園児降園後に日々の振り返りをする時間を持つようにする。また、子どもの支援や保護者への説明の仕方について話し合う時間も作ったり、定期的にケース会議を開催するなどして子どもの支援の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の数が少ない。	地域住民が施設を知る機会がない。ボランティアの受け入れを積極的にはしていない。	引き続き、地域の公民館にアート作品を展示させていただいたり、隣の公立保育園との交流を行っていく。また、地域住民の方にも施設の取組を知っていただけるよう、アート作品展等のお知らせを園バスや療育センターさくら草館内に掲示すること等を検討していく。
2	きょうだい支援の機会が少ない。	きょうだいに参加するイベント等が少なく(運動会はきょうだい参加の競技あり)、兄弟が施設を訪れる機会が少ない。	今後も運動会できょうだい参加の競技を取り入れる。他にも夏季期間にきょうだいの園に同行できる親子通園日の検討を図る。
3	職員体制が整わず、連絡の共有等に時間がかかってしまったり、人手が足りない時間が生じている。	短時間勤務や今年度は職員のバス添乗があった為、職員の勤務シフトが違い、連絡を共有する時間をとることが難しい。また、職員体制が厳しく、すみれの職員がヘルプに入ることが多いのが現状である。	職員体制が薄い時間帯に短時間で非常勤職員を雇用するようにしていく。(コスト面も考慮) また引き続き、打ち合わせ時に不在の職員は、業務日誌や当日の職員体制が分かるボードを確認してから業務に入ることを徹底する。